

交通安全白書

駅ホームドアなど 転落防止対策推進

政府は14日の閣議で、52回目となる交通安全白書を決めた。駅のホームドアについて、2021年度から5年間で3000番線

のうち利用者が1日平均10万人以上の駅は800番線に整備する目標を紹介した。ホームドアがない駅でも、ITなどを活用して視覚障害者の転落防止対策の検討を進めるとした。

75歳以上の高齢運転者に免許更新時に義務付けている認知機能検

査を昨年受検したのは208万6706人。また、昨年自ら運転免許証を返納したのは51万7040件で、前年より6%減った。

特集では、昨年12月末時点で小学校の通学路の7万6404力所で安全対策が必要とされ、23年度末までにおおむね対策を終えるよう取り組むことを紹介した。

(榎戸新)

障害者白書

差別解消へ 特設サイト

政府は14日、2022年版の障害者白書を閣議決定した。21年5

月に改正障害者差別解消法が成立したことを受け、差別解消に関するポータルサイトを3月に開設したことを紹介した。

サイトでは同法が事業者に義務付ける障害者への合理的配慮について解説。障害種別ごとにイラストで説明したほか、視覚障害者が銀行の窓口で順番を待つ場面などを実演する動画も載せた。

このほか白書は21年夏に開かれた東京五輪・パラリンピックのレガシー(遺産)として「法制度の整備」「心のバリアフリーの拡大」「ユニバーサルデザインの街づくり」などを挙げて説明した。

(福田敏克)